令和8年(2026年)11月12日
佐賀県立佐賀工業高等学校
担当者:教頭　平方　伸之、小川　高明
電　話:0952－24－4356
FAX:0952－25－7043
E-mail: sagakougyoukoukou@education.saga.jp

反射炉から続く佐賀の鋳造技術を学ぶ キュポラ（溶解)・鋳造実習を実施します

～反射炉ゆかりの地・日新小学校の児童が歴史と技術の継承の現場を見学～





本年、創立129年目を迎えた県立佐賀工業高等学校は、「至誠剛健」の校訓のもと、地域産業の発展に寄与できる技術者の育成を目指し、様々な取り組みを行っています。

今回は、機械系の根幹を学び、ものづくりの「誇りや喜び」を味わうことを目的として、「キュポラ（溶解炉）を使った溶解・鋳造実習」を下記のとおり実施します。

平成14年度から続く行事で、新たな進路を目前にした機械科・機械システム科の2年生が互いに連携して、安全確保を図りながら取り組みます。

また、11月17日は、幕末、佐賀藩の近代技術の礎となった築地反射炉の史跡が残る日新小学校の児童が、地域の歴史とものづくりの精神を学ぶため見学に訪れます。

記

1　日時　　令和8年11月17日（火曜日)、12月16日（水曜日）　両日とも10時～12時

2　場所　　佐賀工業高等学校鋳造実習室（佐賀市緑小路1－1）

3　対象生徒　　機械科2年　　40名（11月17日実施）
機械システム科2年　　40名（12月16日実施）
※11 月 17 日に、日新小学校の5年生2クラスが見学予定です。

4 実習スケジュール　　8時～キュポラ(溶解炉)点火

10時～溶解実習

11時～鋳造実習(溶かした鉄を型に流し込む実習)

※溶解・鋳造実習の内容については、下を参照ください

5 溶解・鋳造実習について

○ 溶解実習は、午前8時から火入れをし、次に溶解炉に鉄くずとコークス、石灰石を入れ、強風を送り込みます。コークスが燃え、その熱で鉄が溶け、3時間後には、鉄の温度は 1500 度近くにもなります。合図とともに、溶け出た真っ赤な鉄を取鍋(とりべ)に受け、慎重に鋳型に流し込みます。

○ 鋳造実習は、事前に生徒が製作した小型万力や課題研究で製作した製品の型に、溶かした鉄を流し込む実習です。鋳込んだ小型万力の素材は、手仕上げ実習で、やすり加工や穴あけ加工を施し、製品に仕上げます。

○ この実習を通じて、明治日本産業の基礎の一つとなった鉄について、熔解や鋳造の基本を体験し金属加工への理解を深め、ものづくりの重要性を学びます。